



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	セコムHDセンター御殿場	BEE	2.3	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 <sup>*</sup> /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.0 / 5		よい	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.6 / 5		ふつう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 / 5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.5 / 5		ふつう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	
			ふつう 3 点以上	
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点	4.0
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①LowE複層ガラス窓の採用</li> <li>②ハイサイドライトの採用。</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑤敷地内中高木の新植により外構緑地指数26%を確保した。</li> <li>⑥植栽帯および張芝により地表面温度上昇の抑制</li> </ul> </li> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦外壁・屋根の高断熱化およびLowE複層ガラス窓</li> <li>⑧太陽光発電による自然エネルギーの利用。</li> <li>⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。</li> <li>⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。</li> </ul> </li> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑪雨水利用設備の導入による雨水の有効利用。</li> <li>⑫極力ボードGL貼りをしない</li> <li>⑬対象物質を含有しないシーリング材、塗料を選定</li> </ul> </li> </ul>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦外壁・屋根の高断熱化およびLowE複層ガラス窓</li> <li>⑧太陽光発電による自然エネルギーの利用。</li> <li>⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。</li> <li>⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。</li> </ul> </li> </ul>	LR-1 1 1.1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑪雨水利用設備の導入による雨水の有効利用。</li> <li>⑫極力ボードGL貼りをしない</li> <li>⑬対象物質を含有しないシーリング材、塗料を選定</li> </ul> </li> </ul>	LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑫ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑮主風向に対する見付面積比を30%以下とした。</li> </ul> </li> </ul>	LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点	3.6
<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</li> <li>⑯用途係数1.25の採用。</li> </ul>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</li> <li>⑱静岡県福祉のまちづくり条例の特定公共施設基準に適合</li> </ul>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑲	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点	3.5
<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</li> <li>⑱静岡県福祉のまちづくり条例の特定公共施設基準に適合</li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</li> <li>㉑火山石を外構修景に利用。</li> </ul>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑲	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</li> <li>⑤敷地内中高木の新植により外構緑地指数26%を確保した。</li> <li>⑥植栽帯および張芝により地表面温度上昇の抑制</li> </ul>	Q-3 1 ⑤ 2 ⑥ 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点	3.5
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</li> <li>⑤敷地内中高木の新植により外構緑地指数26%を確保した。</li> <li>⑥植栽帯および張芝により地表面温度上昇の抑制</li> <li>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</li> <li>⑮主風向に対する見付面積比を30%以下とした。</li> </ul>	Q-3 1 ⑤ 2 ⑥ 3 3.2 ⑥ LR-2 2 2.5 ⑭ LR-3 2 2.2 ⑮	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑭ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善	

# CASBEE® - 建築(新築) 2021年SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	セコムHDセンター御殿場	階数	地上4F
建設地	静岡県駿東郡小山町	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	200人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,400時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年5月 予定	評価の実施日	2023年8月10日
敷地面積	25,050 m <sup>2</sup>	作成者	藤井久生
建築面積	4,586 m <sup>2</sup>	確認日	2023年8月15日
延床面積	10,082 m <sup>2</sup>	確認者	藤井久生



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

### 2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

SDG	スコア
3(保健)	2.4
4(教育)	2.5
5(シニア)	2.0
6(水・衛生)	2.4
7(エネルギー)	2.5
8(経済・雇用)	2.6
9(イノベーション)	2.2
11(都市)	2.3
12(生産・消費)	2.3
13(気候変動)	2.5
15(陸上資源)	2.3
17(実施手段)	2.4

\* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.2

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

### LR 環境負荷低減性

**LRのスコア = 4.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.9

3 設計上の配慮事項	
総合	その他
<p>これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。 老朽化した現研修センター建て替えにあたり、研修生のプライバシー確保、快適性の向上を図るとともに、現代的な研修環境を整備し、研修効率の向上を図る。</p>	
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>企業研修所として主に研修室および宿泊室の快適性向上を図った。特に界壁と外部建具の遮音性能と外壁と屋根の断熱性能を高め、快適な温熱環境を実現、研修に集中できる環境を構築した。</p>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>敷地内には中高木の植栽を積極的に設け、緑豊かな地域環境との調和に配慮する。外構の修景に火山石を使用するなど、地域性を活かす外構デザインを施す。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>太陽光発電設備を設置、杭による地中熱利用など、自然エネルギーを有効活用し、NearZEBを実現。</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>光害の抑制において、駐車場に必要照度(JIS基準)を満たすよう照明を配置。また、広告物照明の設置は行わない。</p>
<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>研修所の宿泊室をすべて個室で計画するとともに、各階に多目的トイレを設置するなどバリアフリー化を図った。研修所と保養所の施設管理の一元化により、運用効率、メンテナンスの省力化に配慮した。</p>	
<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>雨水利用設備を採用、リサイクル材料や有害物質を含まない材料の採用などで、省資源化に配慮。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される